

サントリー物流における CO₂削減取組み

サントリーホールディングス株式会社
サプライチェーン本部 物流部

サントリーグループの約束

水と生きる

サントリーグループの理念体系



「人と自然と響きあう」

社会の実現

水や農作物など自然の恵みに支えられた

総合酒類食品企業として、

「人と自然と響きあう」を使命に掲げ、

人々の生活を潤い豊かにすることと

自然環境を守り育むことが共存し、

人と自然が互いにより影響を与えあって

永く持続していく社会を目指します。

「サントリーグループ環境基本方針」に重点課題を明示 3/9P

サントリーグループ環境基本方針

サントリーグループは、環境経営を事業活動の基軸にし、バリューチェーン全体を視野に入れて、生命の輝きに満ちた持続可能な社会を次の世代に引き継ぐことを約束します。

1. 水のサステナビリティの追求

「水と生きる」を社会との約束に掲げる企業として、自然界における水の健全な循環に貢献するため、事業活動において最も重要な資源である水を大切に取り扱い、使用する量以上の水を地域で育むことに努めます。

2. 多様で豊かな生態系の保全と再生

水や農作物に依存する企業として、その価値の源泉である水源や原料産地などの生態系を守るため、水源涵養活動や持続可能な農業への移行を通じて、生物多様性の保全と再生に努めます。

3. 循環経済の推進

限りある資源を有効活用するため、原材料などの3R（reduce, reuse, recycle）の推進、再生可能資源の利用、効率的な循環システムの構築を多様なステークホルダーと協働し、商品ライフサイクル全体での環境負荷の低減に努めます。

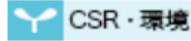
4. 脱炭素社会への移行

気候変動の要因である温室効果ガスの排出を実質ゼロにするため、バリューチェーン全体での排出量の削減に努めます。

5. 社会とのコミュニケーション

豊かな地球環境を未来に引き継ぐため、ステークホルダーと共に持続可能な社会の実現に取組み、地域社会との対話を深めるとともに、積極的な情報開示に努めます。

No.13903(2021/4/20)



2050年温室効果ガス排出の実質ゼロに向け 2030年までにGHG排出量を50%削減(※1)

- 内部炭素価格の導入を決定 —
- 「Business Ambition for 1.5℃」へ署名 —

「環境目標2030」

「環境ビジョン2050」達成に向けて、以下環境目標2030を掲げます。

1. 水

- ・ 最新の節水技術を活用し、自社工場での水使用をグローバルで15%削減※1
- ・ 水ストレスの高い地域を中心に、半数以上の自社工場で水源涵養活動を実施
- ・ 水負荷の高い主要原料について、サプライヤーと協働で持続可能な水使用を追求
- ・ 水に関する啓発プログラムに加えて、安全な水の提供にも取り組み、合わせて100万人以上に展開

2. 温室効果ガス（GHG）

- ・ 自社拠点でのGHG排出量を50%削減※2
- ・ バリューチェーン全体におけるGHG排出量を30%削減※2

※1 2015年における事業領域を前提とした原単位での削減

※2 2019年の排出量を基準とする

環境目標に対して 物流領域での打ち手

5/9P

	排出割合 (2030)	切り口	主な打ち手
輸 配 送	85%	トンキロあたり排出量 を減らす	モーダルシフト
			トラック or 燃料の切替
			積載効率の改善(台数の削減)
		トンキロ を減らす	製造場所の見直し(移動距離減)
			倉庫間の移動削減 (直接納品の推進)
倉 庫	15%	作業効率を上げる	在庫保管効率向上
		使用場所・作業を減らす	在庫数量の削減

目標達成には輸配送の削減が肝
モーダルシフトと並行して、低CO₂排出 トラック/燃料の探索も必要

低CO₂排出トラック/燃料の現状(当社の認識)

6/9P

	コスト		インフラ		その他		
	車両購入	燃料・メンテナンス	給油施設	供給量	製品積載	航続距離	給油時間
電気	必要	技術開発段階	新規設置が必要	供給網確立が必要	重量ダウン	300km	数時間
水素	必要	技術開発段階	新規設置が必要	供給網確立が必要	容積ダウン	600km	数分
バイオ燃料	不要	単価が高い	不要	問題なし	軽油と変わらない		

※国内製造は未だ安定と言えない

各選択肢はまだまだ発展途上

→将来の目標達成に向けて広く選択肢を持ちたい

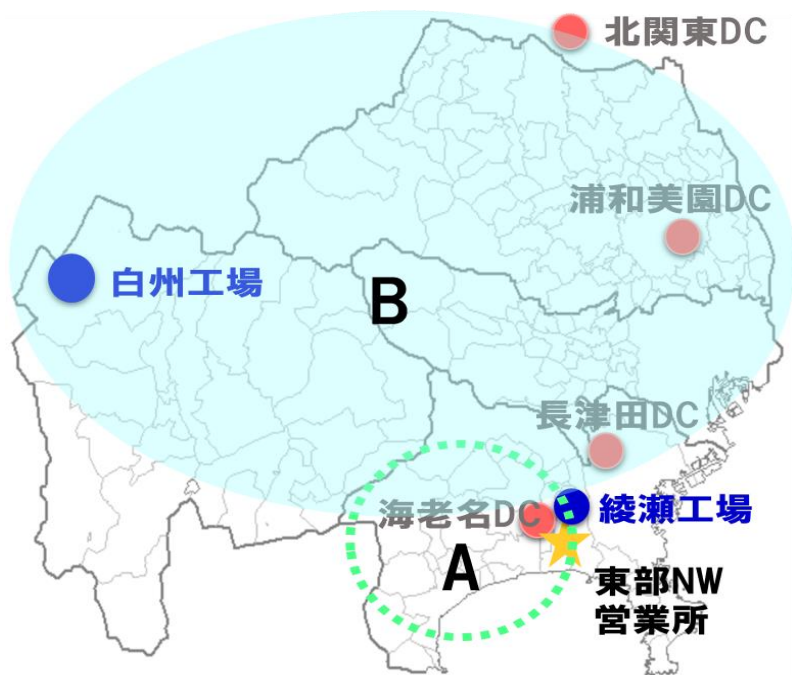
なかでも、バイオ燃料は、既存車両や給油施設が使える利点あり

- ・ 軽油と変わらず運用できるか確認
- ・ 運用を展開する際の課題を抽出

2022年6月～7月（1ヵ月間）

次世代バイオ燃料※で実際の行程を走行

※今回はネステ社製品のRenewable Dieselを使用



A
得意先配送
[増トン車]

B
社内転送
[トレーラ]

給油
拠点

**東部ネットワーク
海老名営業所**

**協力
会社**

鴻池運輸

**サントリー
ロジスティクス**

' 22年6-7月 次世代バイオ燃料実走テスト 評価結果 8/9P

評価方法

- ・ 乗務員による日報
- ・ 整備会社点検による事前(軽油) ⇔ 事後(RD)の車両点検

評価項目

		評価結果
①	燃費	軽油とほとんど同じ
②	馬力	軽油とほとんど同じ
③	車体へのダメージ	なし
④	ドライバーの心理的安全	不安コメントなし

軽油と変わらない燃料性能で、問題なく利用できることを確認できた

10月より導入開始(済)

単価が高い

給油所が少ない

車両・メーカー保証がない

**継続利用しながら、燃料供給会社とも協働し、
各種課題解決を図っていく**

以上